

諏訪ロータリークラブ 新春卓話

セントルイス姉妹都市提携40周年

ゲートウェイアーチ
192m×192m

平成27年1月16日

St. Louis 姉妹都市提携40周年



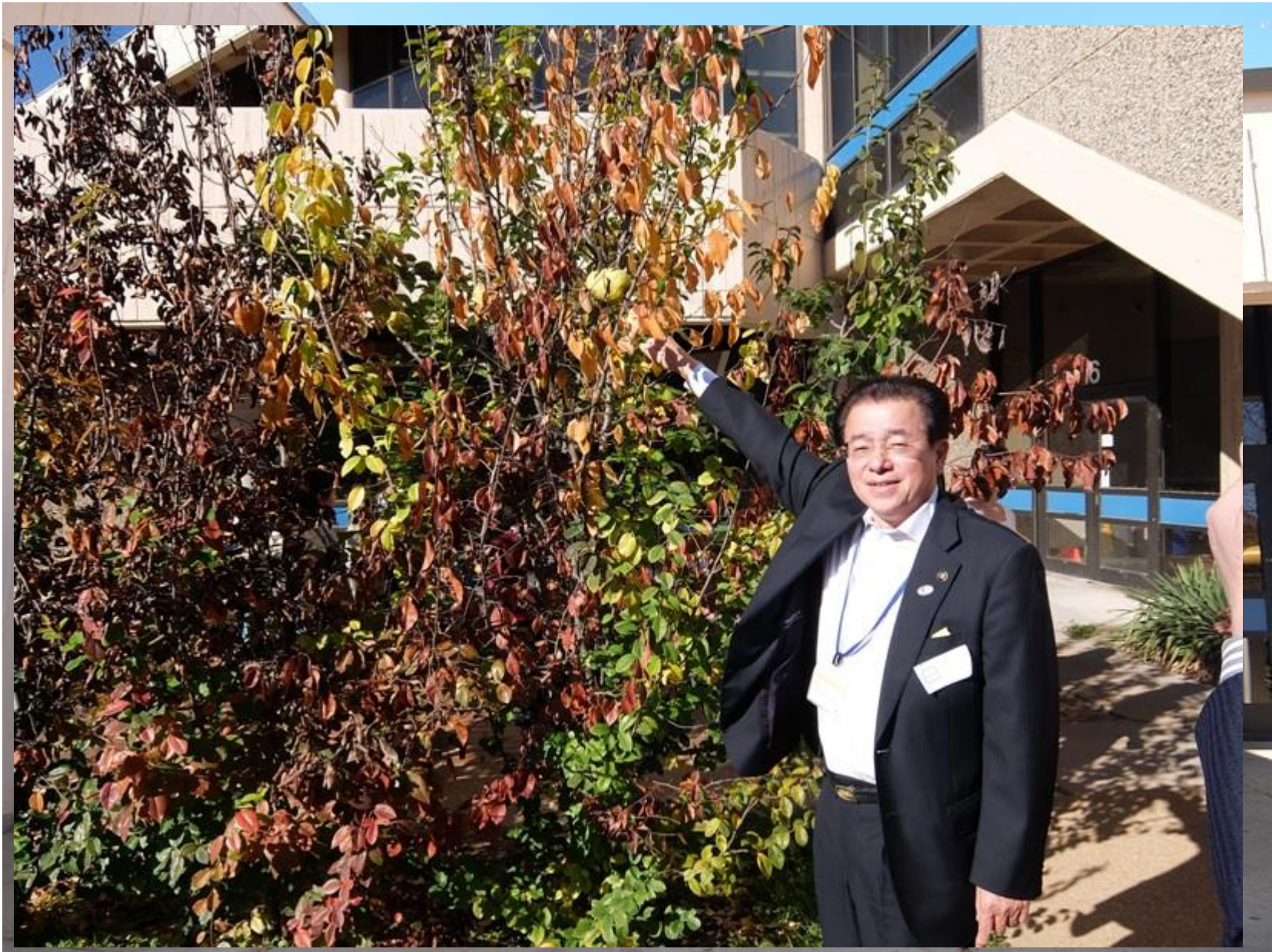


LIFE
DCKER
ULT 155
ILD 12

GATEWAY
ARCH
RIVERBOATS

EXIT





シカゴ ミシガン湖



市政四期16年を振り返って

残されていた課題

諏訪市美術館

国道20号バイパス絶対反対

JR連続立体交差

諏訪警察署移転新築

山田市政 1期 平成11年5月～15年4月

- 市長へのFAX Eメール 市政提言ハガキ
- かりんちゃんバス運行
- 上諏訪駅東口公衆トイレ改築
- 諏訪市工業展(後の工業メッセ)
- 政策アドバイザー委嘱
- ロビー改修、庁舎受付嬢、情報コーナー開設
- まちづくり市民協議会、男女共同参画市民協議会
- 市長と語る夕べ開始
- 職員出前講座「よりあい塾」開始
- 障害児学童クラブ運営開始
- 湖畔公園に足湯完成
- 立石公園リニューアル
- おらほのまちづくり
- かりんちゃんサイト開設
- 高島小学校改築竣工
- 霧ヶ峰雑木処理
- 市民サービス委員会スタート
- 環境基本条例
- 行政連絡会議(区長会議)
- 紹介します私の係 情報誌
- 駅自由通路にエレベーター

2002年 H14年

- 諏訪圏工業メッセ
- 大連開発区との交流

山田市政 2期 平成15年5月～19年4月

- 諏訪フィルムコミッション開設
- スワプラザ内チャレンジショップ
- 諏訪湖で泳ごう
- サマーナイトフェスティバルスタート
- 中国大連に諏訪ブース開設
- 総合福祉センター いきいき元気館開館
- 上諏訪駅構内エレベーター完成
- 博物館前足湯完成
- 高島小学校体育館完成
- 6市町村合併協議会解散
- 3市町合併反対多数 協議会解散
- 精神障害者あおぞら工房開所
- すわっこランド開館
- 諏訪ナンバー認定
- 西中小体育館全焼
- 東洋バルヴ跡地売買契約
- 霧ヶ峰火入れ試験実施
- 平成18年7月豪雨災害 23年ぶり
- 城南保育園完成
- 辻と小径のまちづくり
- 湖周スワンバス運行

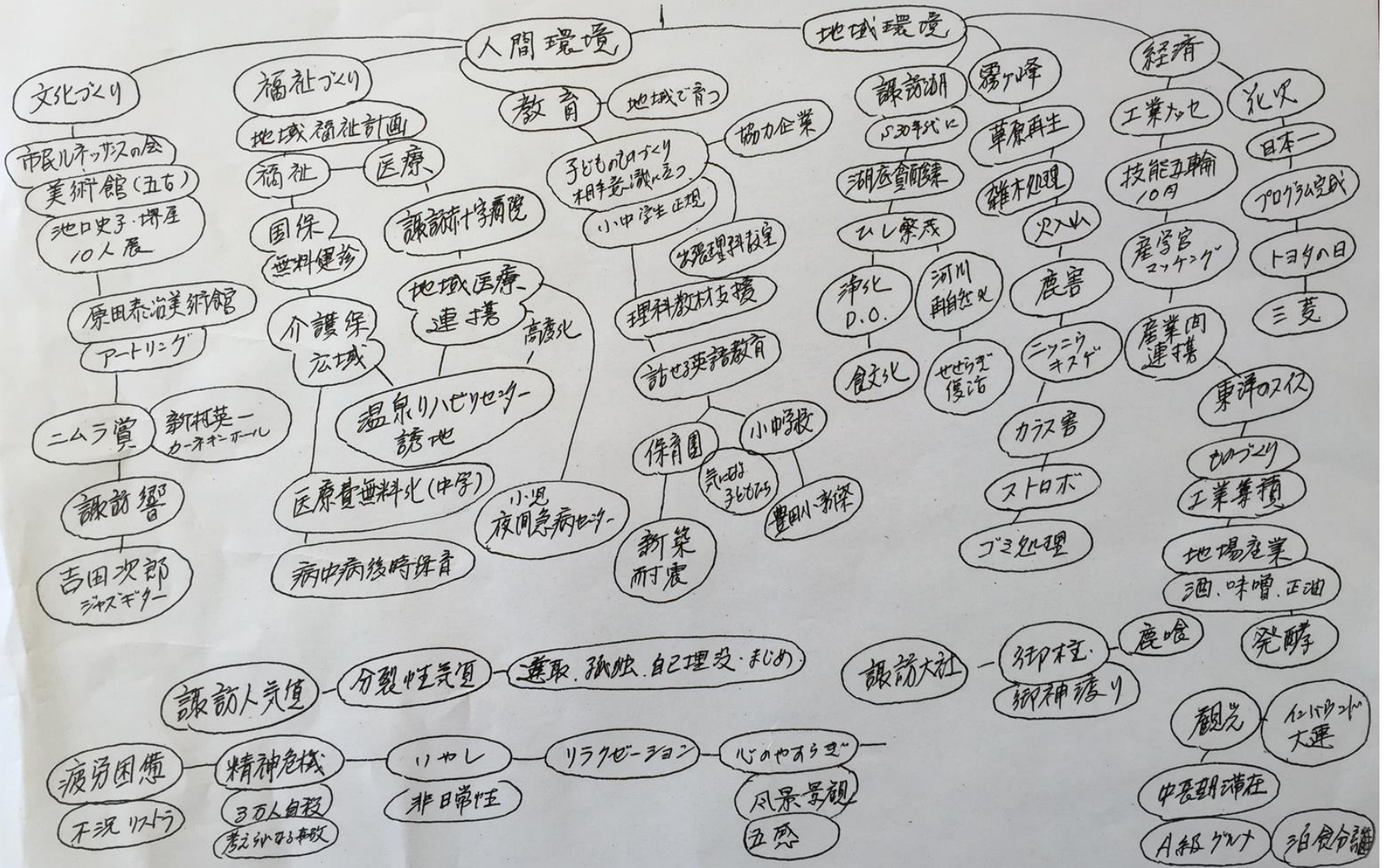
山田市政 3期 平成19年5月～23年4月

- 小児夜間急病センター開所
- 水陸両用バス運行
- こどものものづくり特区認定
- 風林火山うめえもん市
- こども医療無料化小学校3年まで
- まるみつ内に賑わい広場、市民ギャラリーオープン
- マルチハザードマップ
- 大連チャーター便
- 初島改修
- 防災メール配信開始
- 諏訪湖ヒシ採り大作戦
- 平成21年8月豪雨災害
- 諏訪警察署完成
- 西中特別教室棟完成
- 諏訪湖スタジアムスコアボード改修
- サンロード拡幅
- 中央アメニティーパーク稼働
- ドッグラン広場オープン
- 飯島土地区画整理起工
- 本町商店修景計画完成
- 辻と小径 寺の町、蔵の町

山田市政 4期 平成23年5月～27年4月

- リニアCルートに決定
- 縁結びサポート事業開始
- 市制施行70周年記念式典
- 車山肩にバイオトイレ完成
- 出張理科教室 工学院大学
- こなみ保育園完成
- こども医療無料化中学校3年まで
- 地域医療セミナー開始
- 大連金州区と都市協定締結
- アンボワーズ、ベルグル、クンドル訪問
- まち歩きナビ運用開始
- かりんちゃん子バス大和・四賀
- 技能五輪全国大会開催
- 新豊田保育園完成
- 海の家営業終了
- 国道20号バイパス計画段階評価
- 食前諏訪サラダ
- 豊田小学校完成
- 霧ヶ峰大火事
- 諏訪湖湖上花火大会中止
- 保育園耐震工事終了
- ふるさと寄付リニューアル
- SUWAプレミアムショップ
- 人口対策 諏訪で暮らそう
- すわまちくらぶ オープン
- コンビニ交付サービス開始
- セントルイス40周年記念
- 台東区友好都市30周年
- 秦野市姉妹都市30周年
- 伊東市姉妹都市50周年

「生涯安心に暮せる諏訪」 Well-Eco-Being City 「人間としての存在意義-自己達成,知覚」



吉良サミット in 米沢



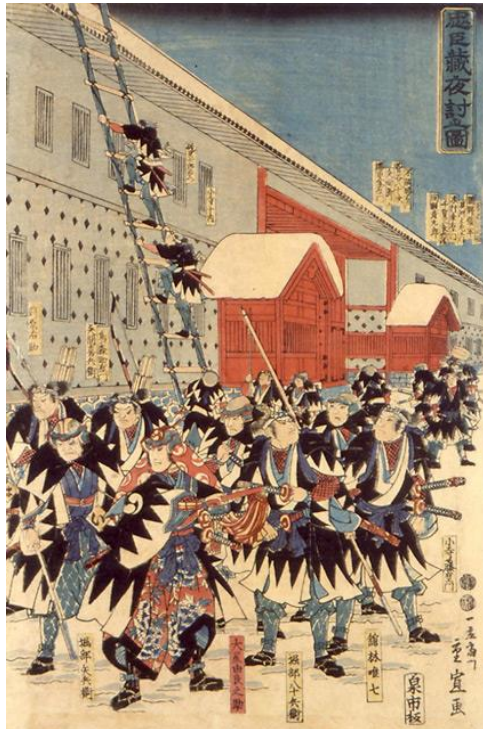
安部三十郎米沢市長

**神原 西尾市長
勝部 一関市長
山田 諏訪市長**

忠臣蔵

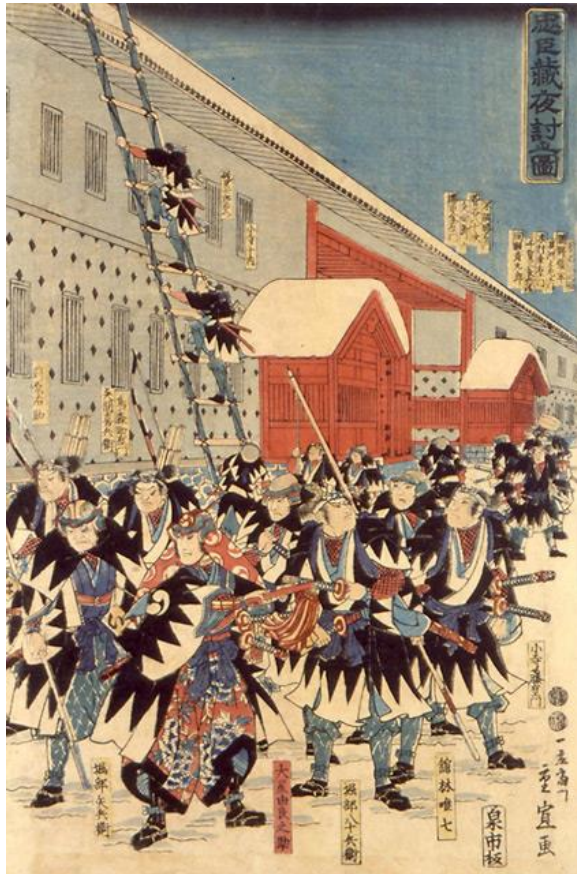
江戸時代中期の元禄14年3月14日(1701年4月21日)、江戸城殿中松之大廊下で赤穂藩藩主・浅野長矩(内匠頭)が高家肝煎・吉良義央(上野介)に刃傷に及んだ。

この一件で加害者とされた浅野は即日切腹となり、被害者とされた吉良はお咎めなしとなった。赤穂藩国家老・大石良雄(内蔵助)をはじめとする赤穂浪士(赤穂藩の旧藩士)47名、いわゆる「赤穂四十七士」(あこうしじゅうしちし)は、元禄15年12月14日(1703年1月30日)未明に本所・吉良邸への討ち入りに及び、見事その首級をあげる。その後の浪士たちの切腹。

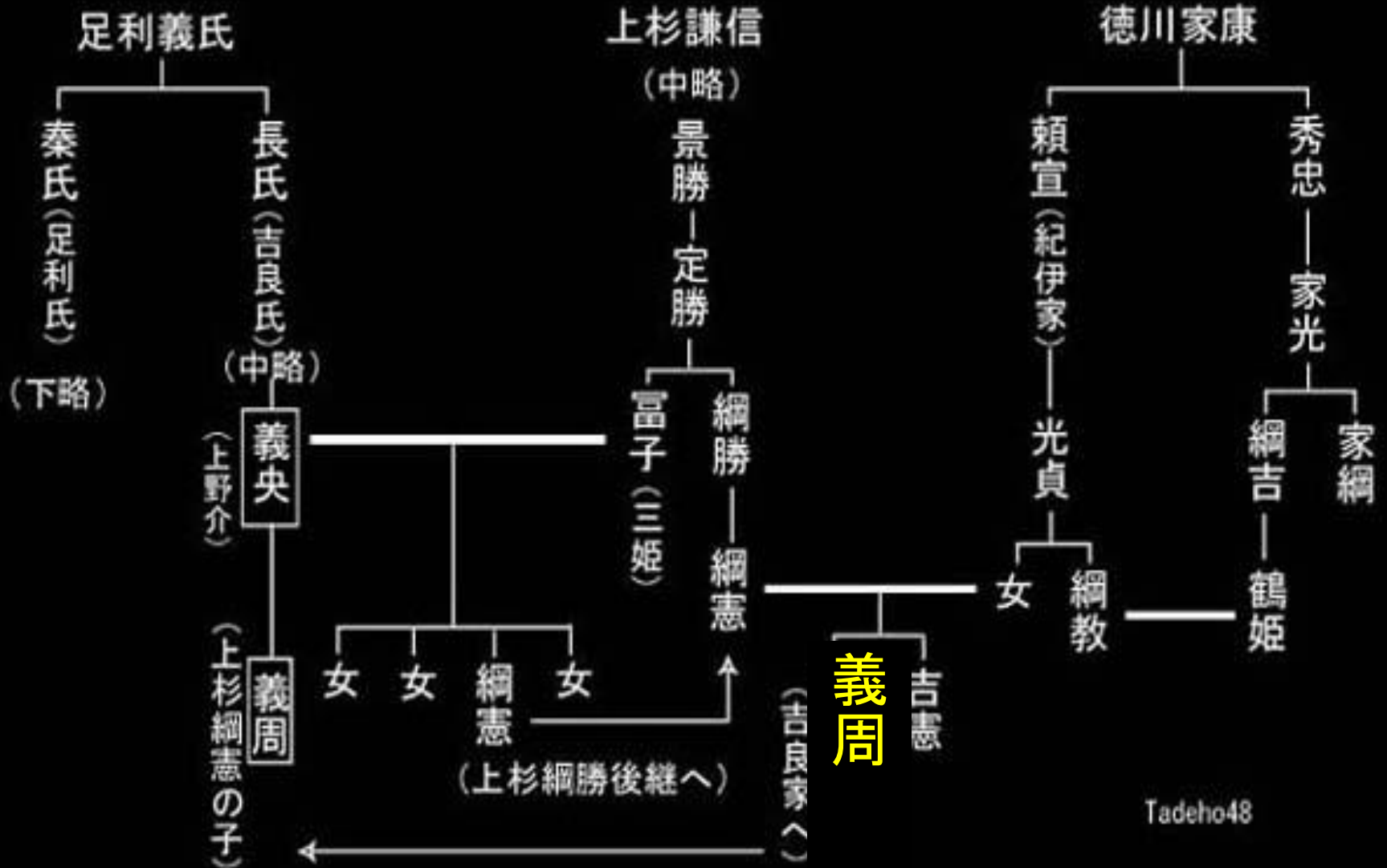


荻生徂徠

落語 徂徠豆腐



吉良左兵衛義周



吉良 義周

生年 天和3年(1683) 歿年 宝永3年(1706) 22歳

米沢藩主 上杉綱憲 次男 5歳にて嗣子

元禄14年冬 吉良義央の家を継ぐ

15年12月14日 吉良邸襲撃

2月 4日 評定所に呼び出し 諏訪高島藩へ配流
高島藩

2月 7日 お預け人があるから受け取るように

2月11日 御預り人お発ち 恙無く勤めるよう

2月16日 居宅(志賀家)へ着いた 道中無事

2月17日 夕食、夜食などよく召し上がっていた

3月28日 傷が治り、薬がいらなくなった

4月16日 南の丸の居宅へお移りになった

宝永3年 1月20日 弱冠22歳で衰弱死 検死後法華寺に埋葬

幕府の対応

左兵衛儀武士道相背キ候者ニテ候安芸守憐愍ノ心ナク
冬ハ木綿布子夏ハ布帷子、朝夕一汁一菜ノ外ハ無用

高島藩の対応

南之丸の準備が整うまでの受け入れ先を志賀利兵衛屋敷とする
到着したときの食事は、熨斗鮑はもちろんのこと一汁五菜を用意する
寒さ対策のための策などが話し合われた。

義周は到着すると食事をよく食べ元気であった

絵を描くことが好きと知り紙を差し上げることを検討した

衣服の着替えがないため新しい着物を用意した

使い捨てたちり紙は家老の千野兵庫自ら扱った

高島藩は義周にさまざまな細かい心遣いをし、懇切に扱ったことがよく窺える。

義周はすることも無く気鬱になり、三年後の宝永二年(1705)に没した。
流人であるため屍体は塩漬けにし、検死をしたのち法華寺住職によって
引取られ、寺に葬られた。旧臣の左右田孫兵衛や山吉新八郎らは、埋葬
や墓地のために金三両を寺に託した。

「南之丸勤方覚」にみる高島藩の対応

- 一、左兵衛様、番所、左右田孫兵衛、山吉新八のことなど一切話してはならない。(左右田孫兵衛・山吉新八は共に義周に付き添ってきた家臣)
- 一、孫兵衛、新八は預かり人ではないが、左兵衛様に何かあってはいけないので、油断してはならない。また、無礼が無いようにすること。
- 一、左兵衛様の御用は志賀利兵衛、黒沢猶右衛門(共に高島藩士)に報告し、両人の指示に従うこと。
- 一、左兵衛様へは、手紙や口上の取り次ぎをしてはならない。
- 一、万一出火があった場合は、当番の番人がお供し、お屋敷の堀の外へお連れすること。
- 一、南之丸より外へ出るなら駕籠を用意すること。
- 一、左兵衛様の髪結は、中小性の内の当番が行うこと。
- 一、利兵衛、猶右衛門が煩いなどの時は井出八右衛門と浜八郎兵衛(共に高島藩士)が同様に勤めること。

- 一、孫兵衛、新八に当家の様子を尋ねられても話してはならない。知らないと言え
ばよい。
- 一、左兵衛様の前にいる時はもちろん、番所にいるときも高声、高話はしてはなら
ない。
- 一、衣類は御定めを通り木綿を着ること。ただし、五節句などの時は袴を着ること。
- 一、左兵衛様の気分が少しでも悪そうなら、本人が言わなくても利兵衛、猶右衛門
にその旨言うこと。
- 一、御用人は毎月一人ずつ南之丸の様子伺いをする事。
- 一、利兵衛、猶右衛門は、一日おきに南之丸を見舞うこと。風雨の時は、二度三
度と回ること。
- 一、家老は、大手より外へ出る時は、二人の内一人は在宅していること。また、毎
日一人ずつ南之丸へ行き、左兵衛様の様子を伺うこと。
- 一、左兵衛様の前へ出る時は、誰でも、脇差、扇子、鼻紙袋(懐中小袋のこと)を
番所へ置いてから出ること。

- 一、左兵衛様の書いたものはもちろん、両家来の反古でも外へ出さないようにすること。
- 一、左兵衛様はもちろん、両家来からも、少々の物でも、貰い物を受けてはならない。
- 一、料理人の六兵衛、源蔵は、昼夜いて、諸用、小使いなど勤めること。火の元には気をつけること。
- 一、門の両脇には、足軽二人ずつ、中間二人ずつ配置する。西の番所は暮六つ時(午後五時～六時位)に木戸の戸締まりをすること。北の番所の足軽、中間は火の番をすること。夜中二時間に一度ずつ拍子木を打ちながら回ること。
- 一、御預かり人がいる間は、よその者を一切城内へ入れてはいけない。
- 一、髪を結う時、湯行水の時、庭へお出の時、爪を切る時、ものを書く時、鋏を使う時は、利兵衛、猶右衛門、八左衛門、八郎兵衛のいずれか一人が付いていること。
- 一、左兵衛様、家来兩人に郷外より来た手紙や当方より遣す手紙などは、殿様が内見してから渡すこと。
- 一、医師衆は二～三日に一度様子窺いをすること。

元禄十五壬午年十二月十五日

【読み下し文】

元禄十五壬午年

一昨夜本所吉良上野介様の屋敷へ浅野内匠頭様

家来衆中七八十人

夜討に入り首共取まかり

返り候由今朝承りかの

御屋敷へ人遣し見させ候所（カ）

人留にてたしかなる事見届

申さず候、表門など扉を

打ち放し棧など懸り

たしかなる様子に候へども手負

死人の儀は只今の事ゆえ

知れ申さず候、夜中七時

押し懸け候由申し候、首

二つ鑓に貫通し候、

今朝たしかに見候者これある由

承り候、当代珍らしき事に候ゆえ

まずたしかなる儀は御座なく

候へども申し入れ候、広く

御沙汰は御無用

なさるべく候、追て委細

申し入るべく候、以上、

十二月十五日

元禄十五壬午年十二月十五日

尚々この書状先刻
相認め右の趣たしかならず候
ところによくよく承り候えば首
二つは上野介様の首
一つは相知れ申さず候、
御息左兵衛様も御一所
御座候へども是は二三ヶ
所浅手負われ候までにて
御□□の由申し候へども一円
たしかなる事知れ申さず候、

元禄十五壬午年十二月十六日

【読み下し文】

元禄十五壬午年

一、一昨夜吉良上野介様竹蔵
の御屋鋪へ浅野内匠頭様
御家来中申し合わせ夜討つかまつり
上野介様まで討ち取り、珍敷
義共□□手負死人の
儀いまだたしかならず候、これにより
聞書写し遣し申し候、あらまし
竹田市右衛門口上御聞き
なさるべく候、

聞書写

一、一昨夜八時過北本所

吉良上野介様御屋鋪へ

浅野内匠頭様牢人

四十三人相催表裏門より

棧を懸け内へ入り上野介様

討ち取り首と相見え候物三

衣類に包にて荷ぎ

夜明方深川永代橋

通芝泉岳寺へ立ち返り

申し候、いずれも火消装束

にて鑓長刀を抜き袴にて

相印には金紙をもつて

後に名名字これを記す事、静かに

まかり通り候由、それより右の内五人仙石伯耆守様

御屋鋪へ参り右の次第一々

申し上げ、この上何分にも

元禄十五壬午年十二月十六日

仰せ付けらるべく候、いづれも芝泉岳寺に
まかりあり候由、これにより伯耆守様

より御城へ御注進なされ候由、

そのほか寺社御奉行町御奉行

よりも御注進仰せ上げられ候由、

それにつき御役人様御徒目付

衆残らず召し呼ばれ

御城へ出申され候由、

一、上野介様御家来討死

加藤久内

小林平八郎

名字知れず

和太利

右の内二人討たれ候由、

一、内匠頭様浪人四十八人

申し合わせの内三人欠ける

大石内蔵助

家老

奥野将監

村松喜兵衛

同 三太夫

堀部弥兵衛

父子名字知れ申さず候

安兵衛

小野寺十内

賀源五右衛門

元禄十五壬午年十二月十六日

上野介様
討取候と
名乗候由
米良半兵衛利義
奥村孫太夫忠直
阿部孫太夫

右三人上野介様首討
取候由、

一、右浪人御預ケ

細川越中守様へ

十七人

松平隠岐守様へ

十人

毛利甲斐守へ

十人

水野監物様へ

六人

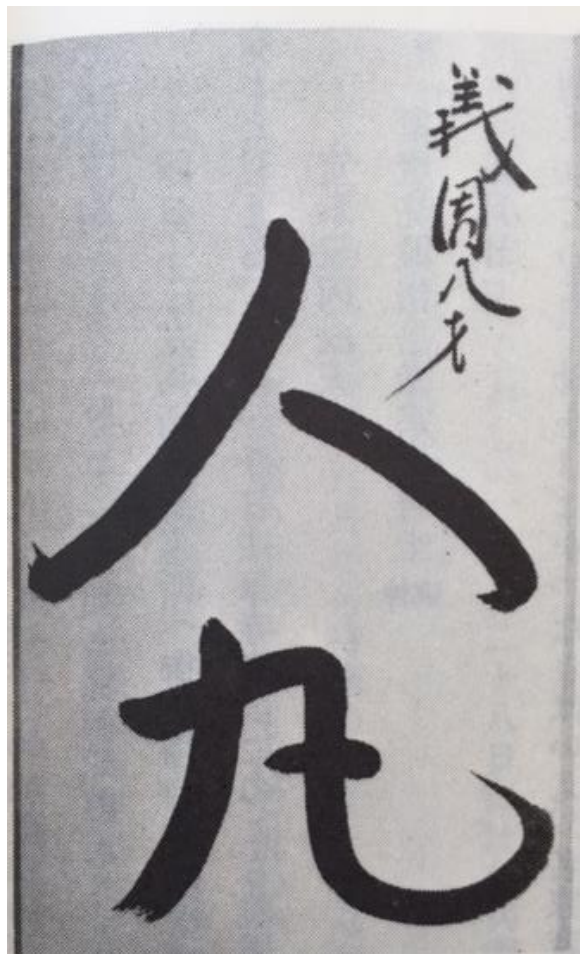
右之通之由

中略

一、吉良左兵衛様二ヶ所
手負之由、又ハ御死去
共申候、

十二月十六日

吉良義周唯一つの遺品とお墓



義周唯一の遺品「人丸」の字

に び 年 の 堂 毎 詣



信州諏訪湖祭
湖上花火大会

ご静聴ありがとうございました